



まちなと小児クリニック院長
医師 新垣 義清

子どものため、そして社会のために ＝小児科医が語る予防接種の重要性＝

病 気にならないという個人的なメリットはもちろんあります。仮に子どもが水ぼうそうにかかった場合、その子は1週間学校を休むことになります。ということは看病するために親も仕事を休まないといけません。そうすると周囲に迷惑をかけてしまうということがあります。

予防接種にはそうした負の連鎖を防ぐ社会的メリットがあると思っています。

予防接種できる環境が整っているにもかかわらず、受けていない子がいる事は現実としてあり、その子たちは生涯に渡りウイルスや細菌に感染する用心をしなければいけなくなります。

ワ クチンによって対応は変わります。日本脳炎などの場合は時期より回数が重要です。時期を逃しても規定の回数接種することが大事です。一方で、ヒブや肺炎球菌は生後2か

接種時期を逃した場合

副反応を心配する保護者もいますが、同時接種することによって、副反応が起こりやすくなるということはありません。

赤 ちゃんが接種する主なワクチンは数多くあり、接種回数は15回以上にもなります。ワクチン接種後、一定期間空けなければ次のワクチンが接種できません。そこで、有効なのが同時接種です。同時接種は必要な免疫を早く確立し、子どもを守るだけでなく、保護者の予防接種スケジュールが立てやすくなり、通院を減らすことができます。また、接種忘れなどがなくなるため、予防という本来の目的を果たす意味で同時接種は非常に有効なのです。

同時接種の有効性

月になったタイミングで接種することがとても重要です。なぜなら、その辺にたくさんいる細菌なので、一度体に入ってしまうとワクチンを打っても抗体が上がりにくくなるためです。

ワクチンの副反応ばかりに捉われず、病気の重症化を防ぐ圧倒的なメリットがあることを知っていただきたいと思います。

「みんなが健康なまち」を目指して

子どもは、成長するまでにたくさんのお病気になることがあります。病気の中には、かかると重い症状があらわれたり、後遺症が心配されたり、時には命に関わることもあります。免疫力が低下している乳児・高齢者がかかると、さらに危険です。

予防接種を受けることにより、未然に病気を防ぐことや、重症化を予防することができ

ます。また、一人ひとりが確実に受けることにより、世の中に流行させないという大切な役割もあります。

赤ちゃんは、ほとんどの予防接種が公費負担のため無料で接種でき、高齢者は一部公費負担で接種することができます。

今回、予防接種の特集を掲載するにあたり、予防接種に関心を持ち、理解していただきたと思います。そして、「みんなが健康なまち」を目指して行きましょう。

風しん・麻しん(はしか)の怖さ ＝社会全体で予防意識を持つこと＝

風 疹は、妊婦が感染すると胎児にも感染し、難聴や心臓に疾患のある赤ちゃんが産まれるリスクが高まります。

麻しん(はしか)は重症化しやすく合併症も怖いですが、数年(5～10年)の潜伏期間を経て、脳に障がいを引き起こす場合もあります。(※沖縄県でも症例あり) 1998～2001年には、県内において、ワクチン接種年齢に達していない乳幼児や接種してない子どもたちが麻しん(はしか)に感染して9人が亡くなっています。

妊婦や免疫力の低い子どもたちを守るためには、社会全体で予防意識を持つことが重要です。

風しん・麻しん(はしか)の怖さ

接 種率は割と高い方だと思いますが、年齢が上がるにつれて接種率低下の傾向があります。多忙による忘れや、子どもが大きくなるにつれて親子が一緒にいる時間が減ってきているということなどが原因の一つではないかと推測しています。

市は接種率向上のため、日曜日でも予防接種ができるよう予防接種ステーションを設置しています。また、公立私立の学校と連携し、入学前説明会や就学時検診などに出向き、予防接種の重要性を伝えたり、夏休み前のチラシ配布を行うなどの取り組みを行っています。

浦添市の現状・課題

昔 に比べ、麻しん(はしか)や風しんにかかる人は減ってきていますが、子どもの感染症を防ぐために予防接種に関心を持っていたかと思

市民の皆さんへ

分らない事や疑問に思ったことをそのままにせず、かかりつけ医に聞いて納得した上で、予防接種して欲しいと思います。

・浦添市の接種率はここ数年、目標値である接種率95%にほとんど届いていません。特にMR2期は、90%を下回っており、病気が流行してしまう可能性があります

・全国や沖縄県全体の接種率と比較しても低い場合が多いです。また、全国や沖縄県の接種率と同様、MR1期に比べ、MR2期の接種率が下がる傾向にあります。

★今後の対策

MR2期の接種率向上のため、対象年度のできるだけ夏までに、早めに接種を済ませることを意識してもらうような勧奨方法を検討したい。(※秋以降はインフルエンザの流行等で体調を崩しやすく、また、小学校入学前の準備等で忙しくなると想定されるため)



予防接種ステーション

お仕事の都合で平日に予防接種を受けさせることができないお父さんお母さん、日曜日に予防接種が受けられる予防接種ステーションをご存知ですか?

ぜひ、ご利用ください。(日曜日午前9時～12時まで)

※利用する前日までに電話予約が必要です(※年末年始は休み)

浦添総合病院(TEL:878-0231)

4月・5月・6月・10月・11月・12月に実施

同仁病院(TEL:876-2212)

7月・8月・9月・1月・2月・3月に実施

※3ヶ月ごとに実施する病院が変わります。

高齢者肺炎球菌予防接種

平成26年10月1日から、高齢者の肺炎球菌予防接種が予防接種法に基づく定期予防接種に導入されました。

高齢者の肺炎球菌予防接種は、重症化予防目的のために行うものであることから、自らの意思と責任で接種を希望する場合にのみ接種を行ってください。

対象年齢

65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳

費用

一部公費負担(自己負担額4,000円)